

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 4 月 2 日現在

機関番号：35404

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2014

課題番号：23730461

研究課題名(和文) 会計国際化時代の会計教育に関する研究

研究課題名(英文) A study of accounting education from global perspective

## 研究代表者

菅原 智 (Sugahara, Satoshi)

広島修道大学・商学部・教授

研究者番号：40331839

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：上記26年度の研究内容は、これまで4年間の中間研究結果と統合させ最終的な研究成果をまとめることであった。研究成果の概要としては、会計教育の国際的調和化の必要性については、各国それぞれの利害関係者の意見や印象が異なり、その差異には、文化や社会環境、言語と言語教育の成熟度、高等教育の制度の違い、公認会計士試験制度の違い、などが大きく影響していることが明らかとなった。

イタリアでのデータ収集が2015年3月に伸びてしまったが、オーストラリアと日本の比較研究成果は、Asian Review of Accountingというジャーナルに投稿し、2015年度内には研究論文として出版することが確定している。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this year was to summarise what we have found in the past four years' intermediate research outcomes. The primary finding of this research project was that perceptions towards the need of global convergence of accounting education among all interest parties are quite different between nations and such a difference in their opinions are significantly influenced by various factors such as culture, social infrastructures, language especially in terms of aptitude of English as the first and second language, tertiary education system, Certified Public Accountants Examination Scheme. The data collection in Italy was not proceed on schedule and the outcome paper would be published after April 2015. However, the other outcome focusing on comparative analysis in accounting education between Japan and Australia was on the right track for publication process of Asian Review of Accounting, which has been already accepted and would be in the journal as an article in 2015.

研究分野：国際会計

キーワード：会計教育 IFRS 国際的調和化 オーストラリア イタリア

## 1. 研究開始当初の背景

昨今、国際財務報告基準(IFRS)の導入とその影響に多くの関係者の関心が高まっている。この会計の大変革による影響のひとつとして、会計教育の内容を国際的に調和し、会計を学ぶ学生の品質を、グローバル基準で保証しようとする動向が見られる(Barth, 2009)。これは、IFRSの適用を決めた国では、財務諸表作成者や利用者が、同じIFRSに基づいて判断を遂行することになるが、仮に各国の会計教育の内容が異なることを原因として、それぞれの判断結果が違ってくれば、会計基準をIFRSで国際統一した意義が希薄化する恐れがあるからである。また国際会計士連盟(IFAC)や国際会計教育基準審議会(IAESB)も、高品質な会計教育を国際的に実現するための要件を国際教育基準(IES)として規定し、加盟する各国の職業会計士団体の遵守を要求している(IAESB, 2009)。さらに最近では、欧米諸国の特定の職業会計士団体間では、会計士資格の相互承認が結ばれ、資格取得前教育や資格試験などの共通化も進行している。

しかしながら、このような近年の動向の中で、会計教育の国際的統一というテーマに対して、大学の会計教員、企業の経理担当者、および職業会計人が、どのような印象を有しているかについて調査した研究は、日本にも海外の先行研究にもこれまで存在しなかった。

このような背景を踏まえ、本研究では、平成22年度に実施した研究から被験者を企業経理担当者と職業会計人にも拡張し、彼らの会計教育の国際的調和に関する印象を包括的に調査することにした。また、国際比較の視点から、会計教育制度および地理的に異なる諸外国(オーストラリアおよびイタリア)からも同様のサンプルを集め、各国の会計教育制度や会計士資格取得制度など、被験者の印象に影響を与える多様な要因の特定も併せて試みることにした。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、会計教育の国際的調和の必要性、その実現可能性や影響について、大学の会計教員、企業経理担当者、および職業会計士の見解や態度を調査し、これからのグローバル社会に適合した日本の会計教育制度のあり方を示すことにある。本研究では、異なる会計教育制度を採用する諸外国との国際比較研究を通して、会計教育の国際化に影響を与える論点を抽出し、日本の会計教育制度の最適解を模索する。研究の総括として、日本における大学会計教育、企業内研修教育、職業会計士養成教育の3つの会計教育領域がどのように連携し、変革すれば、会計教育の国際化に効果

的に対応できるのかを模索し、その戦略的な解決策を提示する。

## 3. 研究の方法

本研究の研究計画・方法(概要)は以下の通りである。

(平成23年度):資料収集および国内の会計教育者、企業経理担当者、職業会計士に対する質問票調査の実施。日本の会計教育制度の概要と会計教育の国際化の影響の調査。

(平成24年度):国内の会計教育者、企業経理担当者、職業会計士に対するインタビューを利用した質的データ分析(QDA)の実施。中間報告の実施。

(平成25年度):オーストラリアとイタリアの会計教育者に対する質問票調査の実施。および両国の会計教育制度の概要と会計教育の国際化の影響の調査。

(平成26年度):オーストラリアとイタリアの企業経理担当者および職業会計士に対するQDAの実施。3カ国での結果の比較分析。最終的な研究成果の編纂と公表。

## 4. 研究成果

主な研究成果は以下の通りである。

### (1) 国際会計基準の認知度調査

日本人の会計教員を対象として、職業会計人のための国際教育基準(IES)の認知度と会計教育の国際化に対する印象を調査した。日本会計研究学会に所属する会員を対象として調査票をもちいた実態調査を実施した結果、教員のIESの認知度は約50%であったが、その理解度は表面的で内容の詳細な理解については20%程度にとどまったことが明らかとなった。また、詳細な理解のある教員ほど、会計教育の国際化には積極的な態度を有していることも明らかとなった。

### (2) 文献における国際会計基準の認知度調査

世界の出版物において、国際会計教育基準(IES)に関するテーマが、どの程度扱われているか、また具体的にいかなる具体的問題が議論されているかを明らかにした。研究手法としてはContent Analysis Methodを採用し、主要な文献データベースを利用して、2003~2011年までに出版された110文献を対象に分析を行った。結果は、

学術雑誌と実務雑誌で取り扱われているテーマが大きく違うことが明らかとなった。また、IES に関わる4つのテーマが現時点の主要な論点になっていることも明らかとなった。

### (3) 会計教育の国際化に関する日本の会計教員の印象調査

本研究では、日本の大学で会計を教える教員を対象に、会計教育の国際化に関する印象を調査した。無作為に選択した日本会計研究学会の会員300名を対象に質問票を送付し、87名からの有効回答を得た。本研究により、多くの会計教員が、会計教育の国際化に積極的な見解を有していることが明らかになったが、反面、問題点や障害についても強く認識していることが判った。

### (4) 会計教育の国際化問題の質的研究

日本の大学がIESするために求められる要件や問題点を、グラウンテッド・セオリー・アプローチ(GTA)を用いて理論として導出した。対象は、会計を大学や大学院で教える会計教員および職業会計士として、データを入手した。結果は、日本の会計を教える研究者や教員は国際教育基準を受け入れて国内の会計教育システムを変革することにたいして、明確なコンセンサスが形成されていないことが明らかとなった。

### (5) ケース・スタディーによる会計教育モデルの構築

国際教育基準(IES)がオーストラリア、日本およびスリランカの職業会計士団体や大学会計教員によってどのような印象を保持されているかについて比較調査した。特に1) IESの認知度、2) コンプライアンスやコンバージェンスに影響を与える要因、3) IESを採用するに際しての影響要因について調べた。研究方法は事例研究を実施し、最終的に他の国においても、当該問題を検討するに際して、利用できる会計教育に共通するフレームワーク・モデルを構築し、その共通点や相違点を知ることで、会計教育を国際調和するに際しての問題点を探ることを試みた。3国から導きだした会計教育のグローバル・モデルを構築し、国際会計教育審議会(IAESB)にそれを用いて更なる多くの国の会計教育の特徴についての情報収集を提案した。

### (6) 課題

本研究プロジェクトでは、イタリアを対象にした研究が含まれていたが、期間内にデータを収集したに留まり、それを編纂する時間が得られなかった。この成果については、近い将来に論文としてまとめ、学会報告や雑誌への投稿を考えている。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

### [雑誌論文](計5件)

Sugahara, S., and G. Boland (2011), Effects of exposure to the International Education Standards on perceived importance of the global harmonization of accounting education among Japanese accounting academics, *Advances in Accounting, incorporating advances in International Accounting*, 査読有, 27(2), pp.382-389, 2011 (論文).

Sugahara, S. (2013) Japanese accounting academics' perceptions on the global convergence of accounting education in Japan, *Asian Review of Accounting*, 査読有, 21(3), pp.180-204, 2013 (論文).

Sugahara, S., and R. Wilson, (2013) Discourse Surrounding the International Education Standards for Professional Accountants (IES): A Content Analysis Approach, 2013, *Accounting Education: an international journal*, 査読有, 19(3), pp.213-232, 2013 (論文).

Watty, K., S. Sugahara, N. Abayadeera and L. Perera, (2013) Developing a Global Model of Accounting Education and Examining IES Compliance in Australia, Japan, and Sri Lanka, *Accounting Education: an international Journal*, 査読有, 22(5), pp.502-506, 2013 (論文).

Sugahara, S., and G. Boland, (2013) The Agreement process for implementing the International Education Standards for Accounting among Japanese accounting academics: a grounded theory approach, *International Journal of Accounting and Finance*, 査読有, 4(2), pp.168-189, 2013 (論文).

### [学会発表](計6件)

2011年11月:「Developing a Global Model of Accounting Education and Examining IES Compliance in Australia, Japan and Sri Lanka」単独 *Accounting Renaissance*, 2011, (Venice, Italy)

2012年5月:「Accounting Educator's Perceptions About Globalisation of Accounting Education」単独 *European Accounting Association (EAA), 2012 Annual Congress*, (Ljubljana, Slovenia)

2012年6月：「Discourse surrounding the International Education Standards for Professional Accountants (IES): A Content Analysis Approach」単独 International Association for Accounting Education and Research (IAAER) 2012 Annual Conference, ( Amsterdam, Netherlands )

2012年9月：「Exploring Model of Accounting Education and IESs Adoption in Australia and Japan」共同（発表代表者：菅原智）日本会計研究学会 2012 年年次大会、英語セッション

2012年10月：「Developing a Global Model of Accounting Education and Examining IES Compliance in Australia, Japan and Sri Lanka」共同（発表代表者：Kim Watty）IAAER/ACCA-IAESB Research Forum, ( London, UK )

2013年8月：「Accounting Academics' Perceptions about Convergence of Accounting Education: A comparison study between Australia and Japan」単独 American Accounting Association (AAA) 2013 Annual Meeting, ( Anaheim, USA )

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕  
出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織  
(1)研究代表者

菅原 智 (SUGAHARA, Satoshi)  
広島修道大学・商学部・教授  
研究者番号：40331839

(2)研究分担者  
該当無し ( )

研究者番号：

(3)連携研究者  
該当無し ( )

研究者番号：